

## 台湾/異文化体験交流ツアー(2025年夏期)

### イメージと体験の違い・挑戦する大切さ

サービス創造学部 小原 紘花

私が、今回の台湾異文化体験交流ツアーに参加して特に感じたことは、「実際に自分の目で見て、体験してみなければわからないものがある」ということと、「興味を持ったものに積極的に挑戦する大切さ」である。

私が今回の台湾異文化体験交流ツアーに参加した理由は、高校時代の部活動がきっかけだ。私は高校時代、和太鼓部に所属しており、その活動の中に台湾の高校生とリモートで交流する機会があった。当時、海外の人と交流することが初めてであったことから、海外の人に対する恐怖や不安を持っていた。しかし、交流を通して台湾の学生の優しさを感じ、ただイメージや噂で不安になっていた自分が恥ずかしくなったと同時に、もっと海外の人と関わってみたいと思い、興味を持ち始めた。しかし、興味はありつつ、一人で全く知らない場所に初めて行くという不安と、言語の壁を感じ勇気を持つことが出来ず、2年次からプログラム説明会には参加しつつ実際に参加することはできなかった。今回の参加を決めたのは、元からの興味もあったが、友人や家族に相談し、「興味があるなら参加するべき」「最初は怖いかもしれないが、行ってみれば楽しい」という声をかけてもらったことから、参加することに決めた。実際に、勇気を出して参加して本当によかったと心から思うし、自分の見ている世界の狭さと、もっと幅広い世界を見たいと考えるようになった。

4日間の研修を振り返り、特に印象に残っているものは、龍山寺、九份、そして東呉大学との交流である。

まず、龍山寺については、お参り方法とポエの使い方について強く印象に残っている。お参りをするときには、日本では二礼二拍手一礼の作法があるが、台湾では拍手はせず合掌のみで、名前、誕生日、住所を言ってから、はいかいいえで答えられる質問をし、ポエを投げたときの面の出方で答えをもらえるという風習があることを知った。また、生前功績を立てた人は神様になると伝えられ、それぞれの神様で願い事をする場所が違い、一つのお寺に何人もの神様がいることも知った。龍山寺での研修を通して、台湾の人は故人や神様、龍に対する信仰が強いことと、台湾独自の祝い事や文化を大切にしていると感じた。

次に九份は、赤を基調とした坂が多い場所であり、景色だけでなく、千と千尋の神隠しのモデルになったと言われている建物もとても綺麗だった。九份では、様々な台湾の人と話す機会があったが、台湾に行く前に考えていた、ぶっさらばうで雑な人が多いのではないかという不安やイメージとは違い、明るく積極的に声をかけてくれる人が多い印象であった。また、パイナップルケーキやお茶

の試食など、お試しも気軽にさせてくれたり、商品に対して質問をしたときも丁寧に答えてくれたりする人も多かった。この九份での体験を通して、台湾の人たちは、フレンドリーに話してくれる人が多いことを知った。

また、日本語を話せる人が多いことにとても驚いた。九份で観光をしている中で、挨拶や感謝の言葉も多く飛び交っているのが聞こえ、イメージとは全く違い、中国語や英語が話せなくてもジェスチャーでコミュニケーションを取ってくれる人もいて、優しい人の多さに感動した。

最後に東呉大学での交流は、今回の研修に参加した目的の一つであったため、とても楽しみにしていた。日本語学科で勉強している学生が迎え入れてくれたが、日本語の流暢さに驚いた。最初は緊張してしまい、率先して会話をすることができなかつたのが反省点である。しかし、東呉大学で案内してくれた学生は、とてもフレンドリーに話をしてくれ、マンガやアニメ、日本に旅行した際の話などをしてくれた。質問や話題作りも積極的にしてくれ、緊張も解け楽しく交流することができた。夜市では、3人の台湾学生に案内してもらって観光した。日本のお祭りの出店と似た雰囲気を感じたが、賑わい方と規模が大きく、毎日夜市をやっていると聞いたときは驚いた。おすすめの食べ物や味付けを紹介してもらい食べたが、日本にはない味が多くとても美味しかった。東呉大学の学生との交流を通して、改めて台湾の人の優しさを感じた。また、実際に台湾の人と話して交流しなければ知ることができなかつた文化やおすすめ、日本についてどう思っているのかなどを知ることができたのもこの交流会ならではの収穫であった。そして何より、日本語学科を履修している人との交流だから余計に感じたことかもしれないが、日本が本当に大好きであるということを感じた。実際に、日本と台湾の文化や食などの違いについて話したり、今大学で学んでいることを共有したり、お互いの国のおすすめについて語ったりすることができ、お互いの国に関心があるからこそ、このような会話をすることができたのではないかと思った。

プログラム参加を通しての学びや気づき、成長した点と反省点として、まず一番思ったことは、ただ想像や見た目、噂などで漠然とした不安や嫌悪感を持ち、悪いイメージがあるからと決めつけるのではなく、実際に目で見て、体験、経験してみてもから判断することが重要ということだ。この異文化体験交流ツアーに参加する前は、日本は安全で優しい人が多いという印象から、高校の頃の経験はありつつ、治安や人柄など海外に対する不安が大きかった。しかし、実際に台湾に行って交流してみて、台湾の人は積極的にコミュニケーションを取りに来てくれ、挨拶や感謝の言葉をかけてくれる、とても優しく明るい人が多い印象を持つことができた。ただイメージだけで決めつけて忌み嫌うことのもったいなさと、実際に現地に行って体験することの重要性を感じた。

成長したと感じる点と反省点として、まず成長した点は、中国語や英語があまり話せなくても、単語やジェスチャーで意思疎通をすることができると感じたことである。確かに、海外に行くうえでその国の言語について勉強したり、世界共

通言語である英語を話せたりするようになるべきではあると思う。しかし、多少話せなくても、自分の伝えたいことを何となくでも相手に伝えられると分かり、海外に行く際に心配していた言語の壁を払拭することができた。

反省点は、時間管理が出来なかったこと、積極的にコミュニケーションを取ろうとしなかったこと、中国語で挨拶や感謝の言葉をあまり発することができなかったこと、イメージで決めつけてしまっていたことが多いことである。

そして何より、台湾のイメージを変え、成長や反省点を見つけられたのは、今回のプログラムに参加しようと挑戦した結果であると考えている。やはり、想像するだけでは何も変わらないし、挑戦しなければわからないこと、得られないものがあると思う。

今後は、より幅広く視野を持ち、様々な場所に行き様々な人と交流してみたい。交流するためには、言語の習得が必要であると考えているので、まずは英語の習得に力を入れていきたいと思う。そして、自分が興味のあるものを見つけたら、イメージで判断するのではなく、積極的に自分から挑戦し、様々な体験をして、憶測で判断せず後悔をしないように、常に挑戦心を大切にしてこれからの生活を充実させていきたい。